

緩和病棟から社会復帰できた骨盤肉腫の1例

鶴田病院泌尿器科 川畑幸嗣

【目的】

12年8月29日～14年6月30日の間にハイパーサーミア（HT）を併用した骨盤肉腫多発転移の治療経験を報告。

【症例】

75歳男性。右骨盤壁の85mm骨肉腫。上行結腸に39mm腫瘍伴う腸間膜播種性転移、傍大動脈リンパ節後腹膜多発転移と尿管浸潤、無機能左水腎症と右軽度水腎症による腎不全、右肺尖部転移、右側壁表在性膀胱癌（UC, G1, pTa）、複数の生活習慣病を合併。

【治療】

表在性膀胱癌はTUR施行。右尿管ステント留置で腎機能温存。1～2週毎HTを74回、2～4週毎GEM600～1000mg単独化学療法を41回施行。漢方食育等の統合医療的補助療法で合併症と癌性疼痛に対処。

【結果】

各腫瘍はPR～SD状態を維持して2年間の長期生存継続中。緩和病棟から社会復帰し、海外旅行も実施。各合併症も経過良好。癌性疼痛も軽減してオピオイド減量に成功。

【考察】

HT中止時期や追加療法の検討が課題となった。